

様式6

令和6年度 学校関係者評価

No. 1

学校名 川内中央中学校

校長名 上栗 博文

番号	事項	評価項目	学校教職員による自己評価			学校関係者評価委員による評価(集約)		
			評価(数値平均)		対策・改善点	評価(数値平均)		主な意見
1	(1)	校長の学校経営方針等が保護者や地域に伝わっている。	段階	人数		平均	段階	
			A	4	3.1	A	2	3.5
			B	24		B	2	
			C	1		C	0	
			D	0		D	0	
○学校便りを安心メールで発信し、学校情報の確認・周知を図っている。 ○保護者アンケートを実施し、教育活動の成果や課題を明確にする。						○教育活動の情報が発信されている。 ○PTA総会において、校長から説明がなされていた。		
2	(1)	望ましい子供の姿(知・徳・体)に向かって数値的目標を設定し努力している。	段階	人数	平均	段階	人数	平均
			A	4	3.0	A	2	3.5
			B	23		B	2	
			C	3		C	0	
			D	0		D	0	
○数値目標の達成について、職員による学校評価を行い、成果や課題を分析、目標達成のための具体的対策を講じる。						○数値目標を設定し努力されている。 ○学校経営グランドデザインで数値目標が設定されている。		
3	(2)	子供たちは、楽しそうに生き生きと学校生活を送っている。	段階	人数	平均	段階	人数	平均
			A	9	3.2	A	3	3.8
			B	17		B	1	
			C	3		C	0	
			D	0		D	0	
○学級・生徒会・部活動等への所属感を高める取組を推進する。 ○学活や道徳、学校行事等において、望ましい人間関係を身に付けさせる。						○登校している生徒たちは楽しそうに明るくしている。 ○様々な行事で子どもたちが生き生きと学校生活を送っている様子が伝わってきた。		
4	(2)	いじめや不登校など生徒指導上の課題解決に向けて積極的に取り組んでいる。	段階	人数	平均	段階	人数	平均
			A	8	3.2	A	1	3.0
			B	19		B	2	
			C	2		C	1	
			D	0		D	0	
○情報を収集・共有し、生徒指導部会・心の教育委員会を中心に対策等を検討、役割分担を明確にし、チーム学校としての取組を強化する。						○生徒指導部会や心の教育委員会などを中心に、課題解決に取り組んでいる。		
5	(3)	子供たちの安全(登下校時、自然災害時)について細心の注意を払っている。	段階	人数	平均	段階	人数	平均
			A	4	3.0	A	1	3.3
			B	22		B	3	
			C	3		C	0	
			D	0		D	0	
○登下校指導(事故防止・安全指導)を徹底する。 ○生徒の危機管理能力の育成を図る取組を推進する。 ○交通事故の要因や多発場所について注意を促す。						○交通安全の指導の強化、特に自転車通学生徒について指導が必要だ。		
6	(4)	教職員は、子供や保護者、地域との望ましい関係を築いている。	段階	人数	平均	段階	人数	平均
			A	9	3.2	A	0	3.0
			B	17		B	4	
			C	3		C	0	
			D	0		D	0	
○生徒の頑張りを評価・称賛し、学校便り・ブログ・学級通信等において発信する。 ○地域行事等への積極的な参加を促す。						○学校行事等の参観、PTA行事等の参加。		
7	(5)	学校は常に整理整頓、清掃され、花や緑に囲まれている。	段階	人数	平均	段階	人数	平均
			A	5	2.9	A	1	3.0
			B	17		B	2	
			C	7		C	1	
			D	0		D	0	
○清掃指導を徹底し、心身ともに過ごしやすい学校環境づくりに努める。 ○道徳や学校行事等を通じて愛校心を育てる活動を推進する。						○生徒の日頃の自主的なボランティア参加と愛校作業等の活用。		
8	(5)	学校の施設・設備は定期的に安全維持管理のための点検等がなされている。	段階	人数	平均	段階	人数	平均
			A	6	3.1	A	1	2.8
			B	22		B	1	
			C	3		C	2	
			D	0		D	0	
○毎月の安全点検を徹底し、修繕箇所の改善に努める。						○校舎の構造上の問題や校舎の劣化は否めないが日頃の安全点検が必要だ。 ○開校して40年が経過しており、今後、計画的・年次的に補修等を進める必要がある。		
9	(7)	子供たちの学力や体力の実態が保護者や地域によく知らされている。	段階	人数	平均	段階	人数	平均
			A	13	3.4	A	0	3.0
			B	15		B	4	
			C	2		C	0	
			D	0		D	0	
○諸検査や定期試験の結果配布を確実に行う。 ○全国(鹿児島)学力・学習状況調査について、学校便りを通じて保護者や地域へ学校の実態を周知する。								
10	(7)	保護者や地域は学校の教育活動に対して協力・支援を行っている。	段階	人数	平均	段階	人数	平均
			A	3	2.8	A	1	3.3
			B	16		B	3	
			C	7		C	0	
			D	1		D	0	
○PTAや専門部活動等への参加促進のための広報活動に力を入れる。 ○定期的なPTA理事会の開催により、役員との協議・対策の検討を行う。								

様式6

令和6年度学校関係者評価

No. 2

学 校 名
川内中央中学校

番号	事項	評価項目	学校教職員による自己評価(集約)				学校関係者評価委員による評価(集約)			
			評定(数値平均)			対策・改善点	評定(数値平均)			主な意見
11	(6)	小中一貫教育は、積極的に実践され、子供たちの姿として現れている。	段階	人数	平均		○本校区の小中一貫教育の構想や目標を明確にし、推進委員会やクローバー部会において研究を推進する。 ○管理職及び教職員間の研修の充実を図る。	段階	人数	
			A	3	2.7	A		1	3.3	
			B	14		B		3		
			C	11		C		0		
			D	1		D		0		
12	(6)	薩摩川内元気塾は、子供たちに夢や元気を与えてくれている。	段階	人数	平均	○生徒アンケートを分析、生徒の実態を把握し、進路指導の充実を図る。 ○発達段階に応じて、郷土愛や情操教育に適した企画を行う。	段階	人数	平均	
			A	6	2.8		A	2	3.5	
			B	10			B	2		
			C	10			C	0		
			D	1			D	0		
13	(6)	英語教育の推進について、小・中学校の特質を活かして充実が図られている。	段階	人数	平均	○コミュニケーション活動の時間を増やし、生徒が英語に親しみむことができるようにする。 ○小中一貫教育における乗り入れ授業等を実施する。	段階	人数	平均	
			A	1	3.0		A	0	2.8	
			B	4			B	3		
			C	1			C	1		
			D	0			D	0		
14	(2)	子供たちは、学校や地域で進んであいさつをしている。	段階	人数	平均	○生徒会による自主的・主体的な活動の推進を図る。 (AKP活動) ○各種協議会や地域団体と連携した生徒の健全育成に努める。	段階	人数	平均	○学校を訪れた際は、生徒は皆、元気にあいさつをしてくれる。 ○校内ではよくあいさつはできている。
			A	3	2.8		A	1	3	
			B	18			B	3		
			C	7			C	0		
			D	1			D	0		
15	(8)		段階	人数	平均		段階	人数	平均	
			A		#DIV/0!		A		#DIV/0!	
			B				B			
			C				C			
			D				D			
16	(8)		段階	人数	平均		段階	人数	平均	
			A		#DIV/0!		A		#DIV/0!	
			B				B			
			C				C			
			D				D			

↑A=4点、B=3点、C=2点、D=1点として、学校教職員の評価を平均(小数第1位まで)

↑A=4点、B=3点、C=2点、D=1点として、学校関係者評価委員の評価を平均(小数第1位まで)

＜学校関係者評価結果及び委員の意見等をふまえた次年度の改善点と対応策＞

- 日常の清掃作業の徹底やPTA主催の親子奉仕作業での環境整備など、学校主事等と連携を図りながら年間を通じた緑化・環境整備に努める。
- 安全点検(月1回実施)による不良箇所の確認を行い、事務職員や市教育委員会への依頼等、生徒の安全面を第一とする施設・設備の安全維持管理を行う。
- 教育活動の課題について、PTA理事会や各地区コミュニティー協議会等へ情報提供を行うなど、保護者・地域との連携の強化、支援体制を構築する。
- 本校区の小中一貫教育が目指しているミドルゴールやファイナルゴールを全職員に周知し、所属する4クローバー部会における実践の工夫・改善に努める。
- 薩摩川内元気塾については、生徒・職員アンケートを基に、内容等について成果や課題を明らかにし、次年度の企画について検討する。
- 小中一環教育における英語科の連携を強化するとともに、授業でのコミュニケーション活動の時間確保を行い、英語に親しみをもつ生徒の育成に努める。
- あいさつ運動の地域展開を図るために、生徒会での具体的な取組について検討させ、生徒が地域の一員であるという意識を高め、学校だけでなく地域でのAKP活動の実践に取り組ませる。